



おきぎん 経済研究所

NEWS RELEASE

“地域のことは地域で考えよう”

〒900-0013 那覇市牧志1丁目3番45号、3階 電話 (098) 869-8711

2016年12月27日

各位

株式会社 おきぎん 経済研究所

「第66回おきぎん企業動向調査」
(2016年10-12月期) 調査結果

※ お気づきの点、不明な点などがございましたら、ご遠慮なく下記までご連絡ください。

・担当：高良

問い合わせ先：(電話：098-869-8711 ファクシミリ：098-869-2200)

現場主義とお客さまからの信頼

第66回おきぎん企業動向調査(2016年10-12月期)調査結果

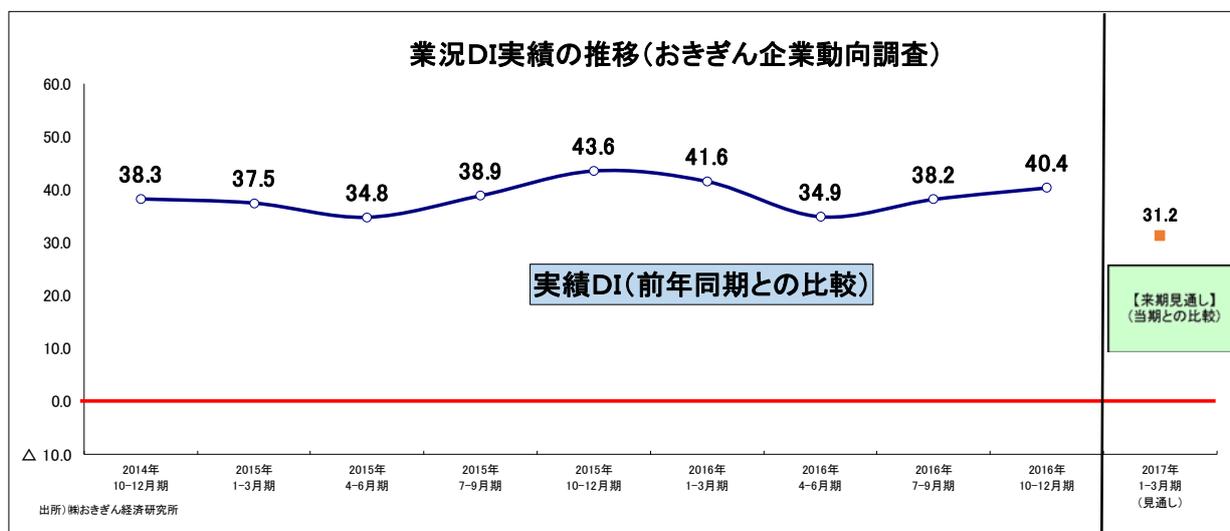
～県内(地域・業種別)の経営環境と業況感(2017年1-3月期見通し)～

I. はじめに

1. 調査の結果

| 【業況DIの推移】 | 2015年 | 2016年 | | | | 2017年 |
|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|
| | 10-12月期 | 1-3月期 | 4-6月期 | 7-9月期 | 10-12月期 | 1-3月期 (見通し) |
| 項目 | 前年同期比DI | 前年同期比DI | 前年同期比DI | 前年同期比DI | 前年同期比DI | 前期比DI |
| 全業種計 | 43.6 | 41.6 | 34.9 | 38.2 | 40.4 | 31.2 |
| 製造業 | 47.7 | 42.6 | 34.0 | 40.4 | 23.9 | 30.4 |
| 土木業 | 37.5 | 47.4 | 31.3 | 31.6 | 59.1 | 50.0 |
| 建築業 | 45.2 | 44.3 | 46.8 | 41.9 | 43.6 | 31.7 |
| 卸売業 | 37.5 | 30.5 | 24.2 | 27.4 | 35.8 | 24.7 |
| 小売業 | 35.0 | 27.1 | 33.8 | 48.1 | 35.6 | 28.8 |
| 情報通信サービス業 | 37.5 | 33.3 | 8.3 | 22.2 | 20.0 | 20.0 |
| 医療・福祉 | 20.0 | 22.7 | 11.1 | 7.4 | 53.6 | 32.1 |
| その他サービス業(宿泊・飲食等) | 70.6 | 52.5 | 39.1 | 44.3 | 33.9 | 35.7 |
| その他(不動産、運輸等) | 45.6 | 52.4 | 39.8 | 43.1 | 51.8 | 32.5 |

- 2016年10-12月期の業況DIは**40.4**(前年同期比)となり、**全業種で業況改善の動き**がみられ、2011年7-9月期より22期連続のプラスとなりました(2桁プラスは2012年1-3月期より20期連続)。
- 2017年1-3月期の業況見通しDIは**31.2**(2016年10-12月期比)となり、引き続き**全業種で業況改善の動き**が見込まれます。



2. **調査の概要**:本調査では各企業の業況や売上高、売上・仕入単価、採算等の経営状況項目について、主に経営者の判断(当期実績、来期見通し)をDI(景気動向指数)として取りまとめました。

- a. 調査時期:2016年11月中旬~12月上旬
 b. 調査対象:県内企業 500社 回答
 c. 調査内容:①業況 ②売上高 ③売上単価 ④仕入単価 ⑤採算 ⑥引き合い(問合せ等)
 ⑦雇用 ⑧設備・その他投資需要(第51回調査までの「IT関連投資」と「その他の投資」を統合)

—おきぎんDIについて—

主に企業経営者の業況などに関する実績判断や見通しを「好転・上昇・増加」、「不変(変わらない)」、「悪化・低下・減少」のいずれかでお答えいただき、各割合を表したものです(本レポートでは「悪化・低下・減少」はマイナス表示を使用)。

①「好転・上昇・増加」+「不変(変わらない)」+「悪化・低下・減少」=100%

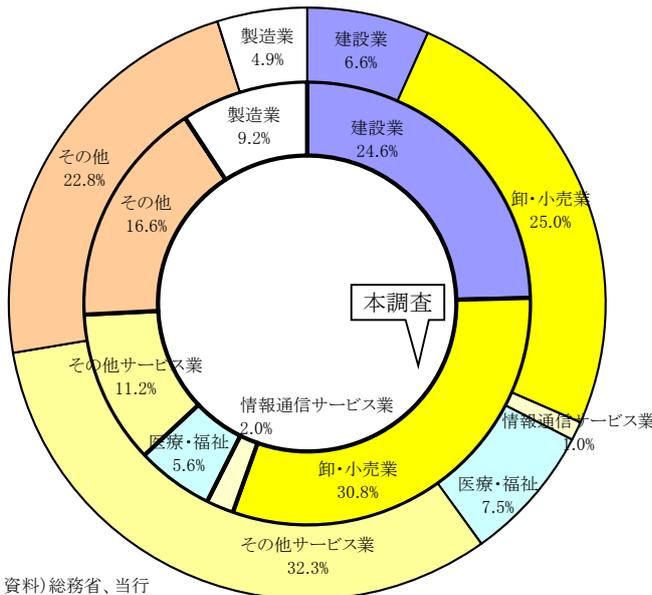
②DI(景気動向指数) = 「好転・上昇・増加」の割合(%) - 「悪化・低下・減少」の割合(%)

従って、DIがプラスなら景気が良い(または上昇見込み)、マイナスなら悪い(または下降見込み)とご覧いただけます。

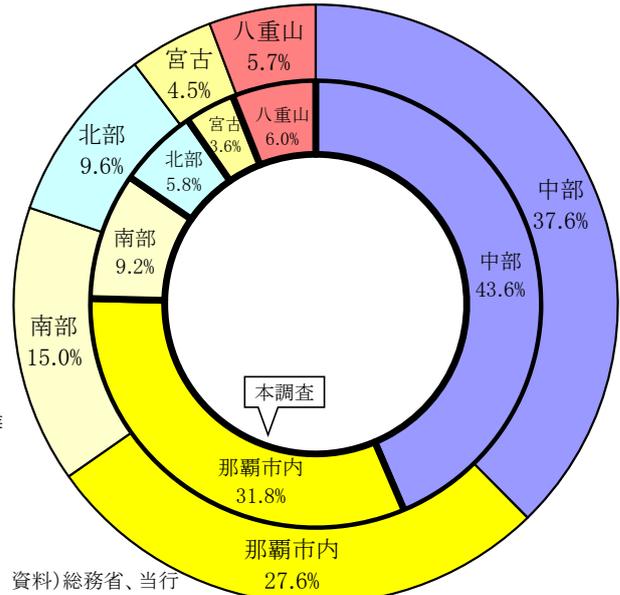
3. 調査対象企業の業種・所在地構成

- 本調査の業種構成を県内事業所データ(2014年経済センサス基礎調査)と比べると、【建設業(本調査では土木・建築業)】、【卸・小売業】、【製造業】、【情報通信サービス業】はサンプリング数が多く、【その他サービス業(宿泊、飲食等)】、【その他(不動産、運輸等)】、【医療・福祉】はサンプリング数が少なくなっています。
- 所在地構成については、中部・那覇市内で7割を超えるシェアとなっています。

産業別事業所数の構成(外円:沖縄県、内円:本調査)



事業所数所在地の構成(外円:沖縄県、内円:本調査)

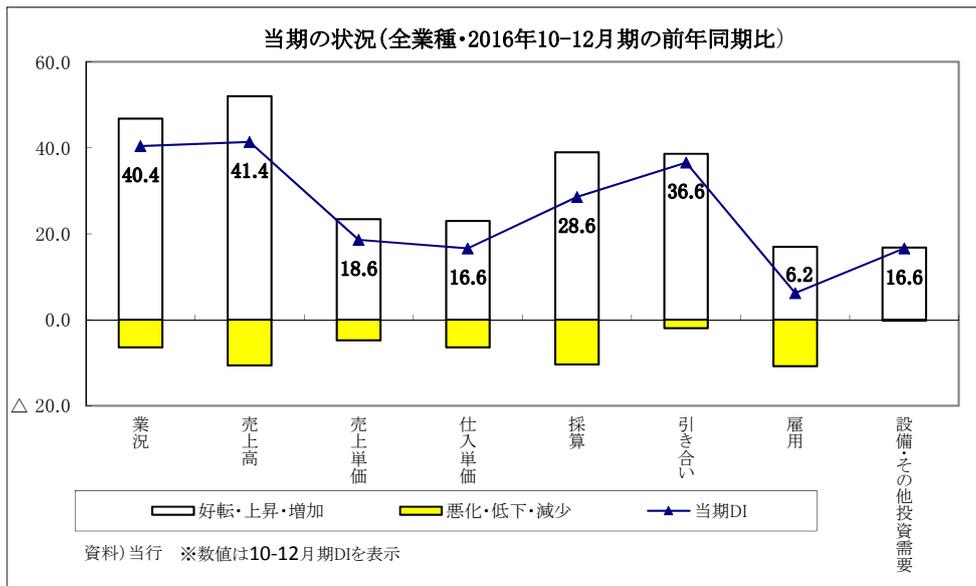


II. 調査結果(1) ～おきぎん DI: 県内の経営環境と業況感について～

1. 全業種

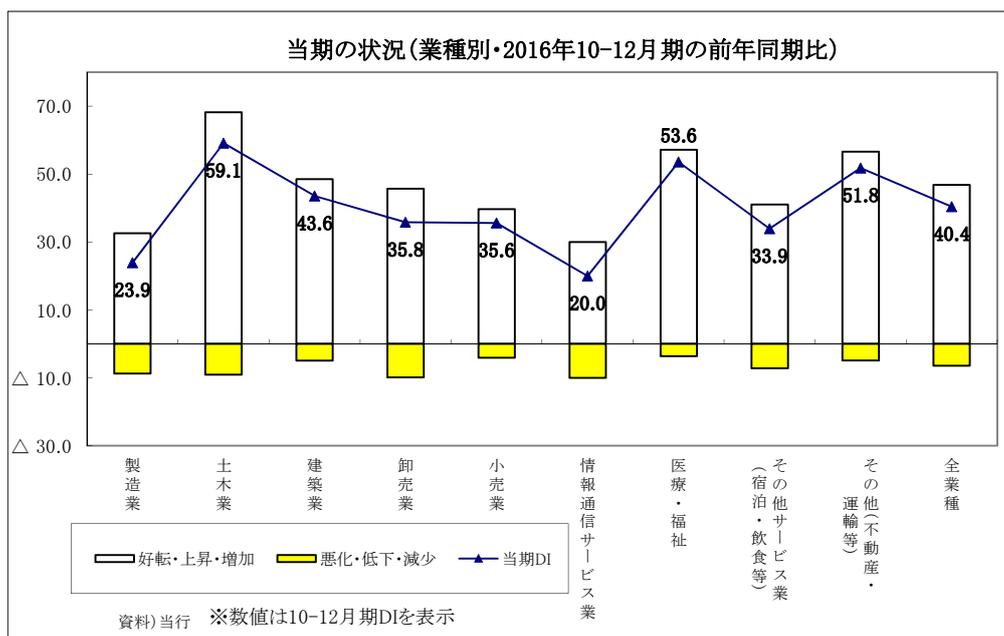
a. ①当期の状況(項目別・2016年10-12月期の前年同期比)

当期の業況は 40.4 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。公共・民間工事の受注増加や修学旅行シーズン、インバウンド需要などによる観光需要の増加から、売上高(41.4)や引き合い(36.6)をはじめ、多くの項目で改善の動きがみられます。一方で、一部では円安や資材価格高騰などの影響から、仕入単価(16.6)の上昇が懸念されています。



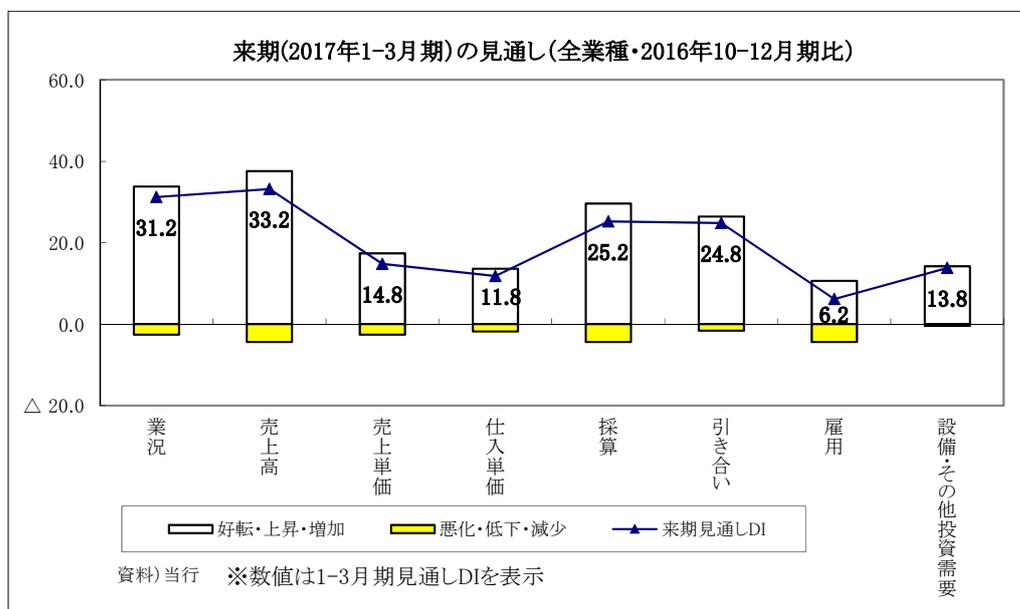
a. ②当期の状況(業種別・2016年10-12月期の前年同期比)

業種別では、全ての業種において業況改善の動きとなりました。公共・民間工事の受注増加がみられる【土木業(59.1)】、【その他(51.8)】、【建築業(43.6)】や【医療・福祉(53.6)】などにおいて、全業種 DI を上回る強さがみられます。



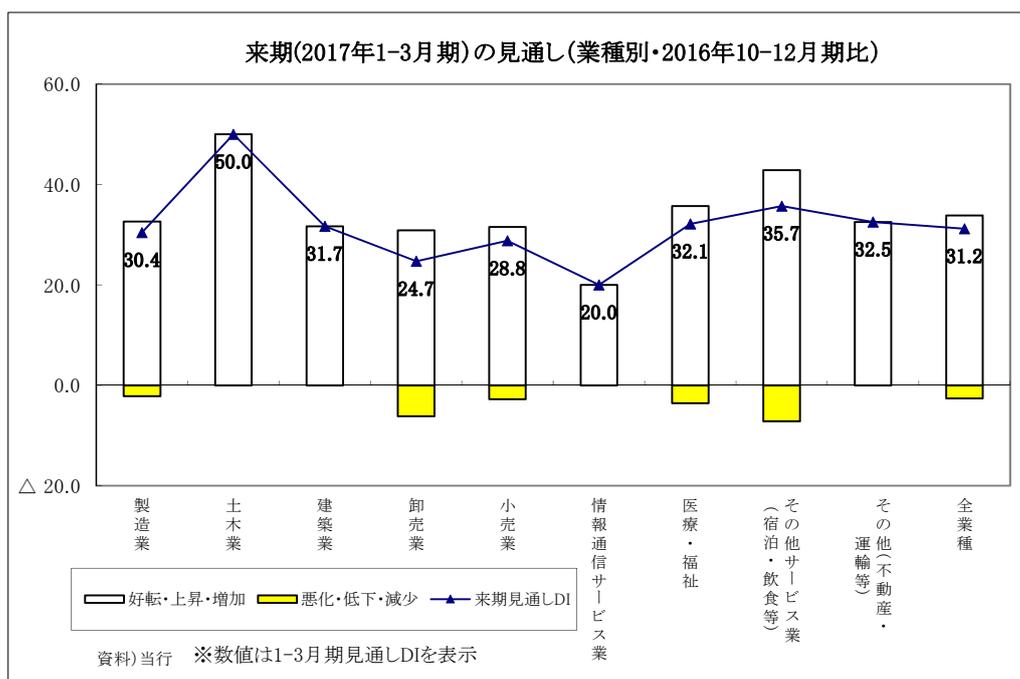
b.①来期の見通し(項目別・2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

来期見通し業況DIは31.2となり、引き続き、業況改善の動きが見込まれます。年度末に向けた公共・民間工事の受注増加や国内外観光客の需要増加が見込まれ、売上高(33.2)、採算(25.2)、引き合い(24.8)など、多くの項目で改善の動きが見込まれます。



b.②来期の見通し(業種別・2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

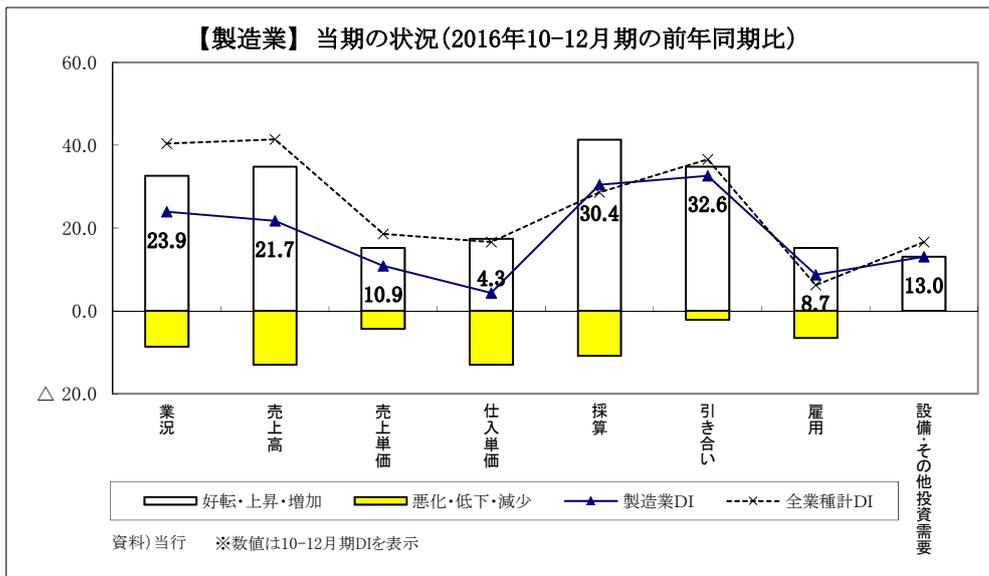
業種別では、全業種において業況改善の動きが見込まれます。【土木業(50.0)】、【その他サービス業(35.7)】、【その他(32.5)】、【医療・福祉(32.1)】などで全業種DIを上回る強さが見込まれます。



2. 製造業

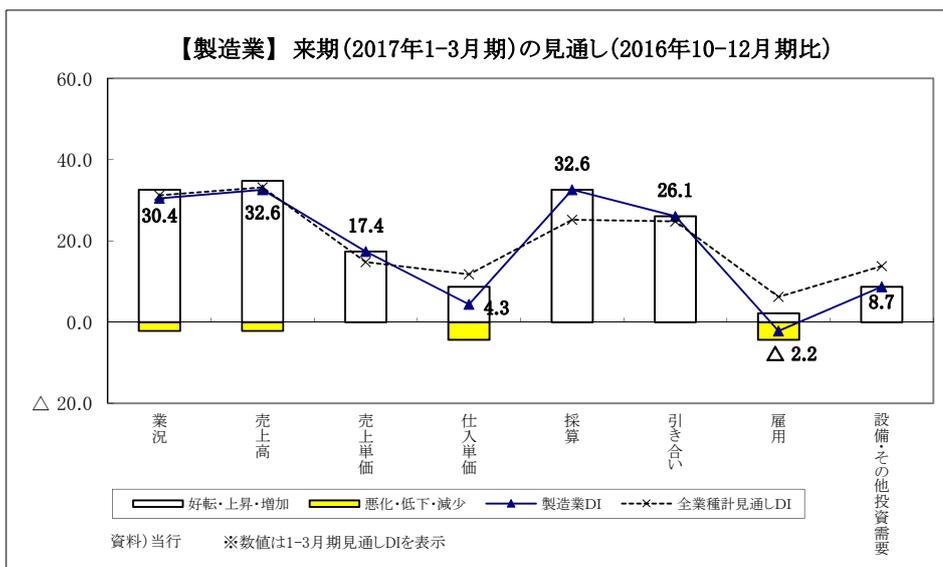
a. 当期の状況 (2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは23.9となり、全体としては業況改善の動きがみられます。生コン製造業(二次製品含む)では公共・民間工事に伴う需要の増加などから、食品製造業(アイス・せんべい・そば等)では観光需要の高まりや販路拡大などにより、売上高・採算・引き合いの増加がみられます。一方、一部では工事の進捗遅延などにより売上高・採算が悪化している事業者がみられます。



b. 来期の見通し (2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

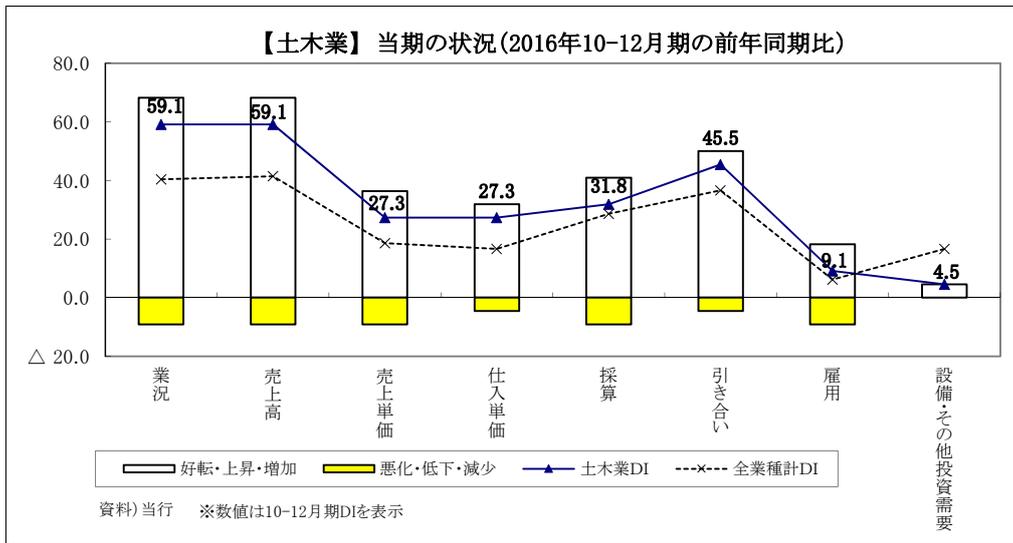
見通し業況DIは30.4となり、全体としては業況改善の動きが見込まれます。引き続き、生コン製造業では年度末に向けた工事需要の増加が見込まれるほか、食品製造業などでは設備投資による生産性の向上や販路拡大などから、売上高・引き合い・設備投資需要の増加が期待されます。



3. 土木業

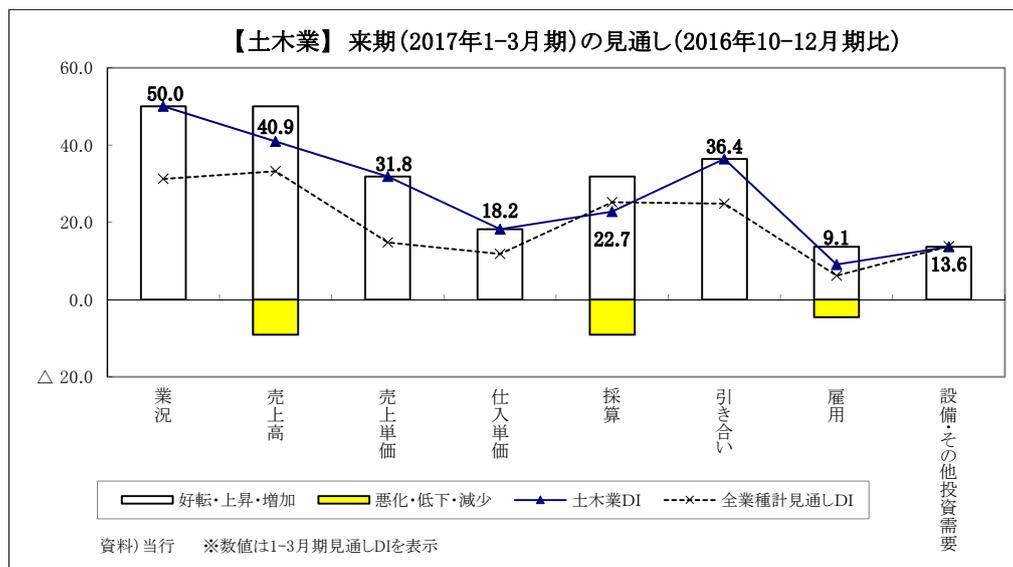
a. 当期の状況 (2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは 59.1 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。公共工事(モノレール延伸、公園造成等)の受注増加から、売上高・売上単価・採算・引き合いが増加しています。一方、一部では工事入札件数や落札金額の減少の影響などから、売上高・採算が悪化している事業者がみられます。



b. 来期の見通し (2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

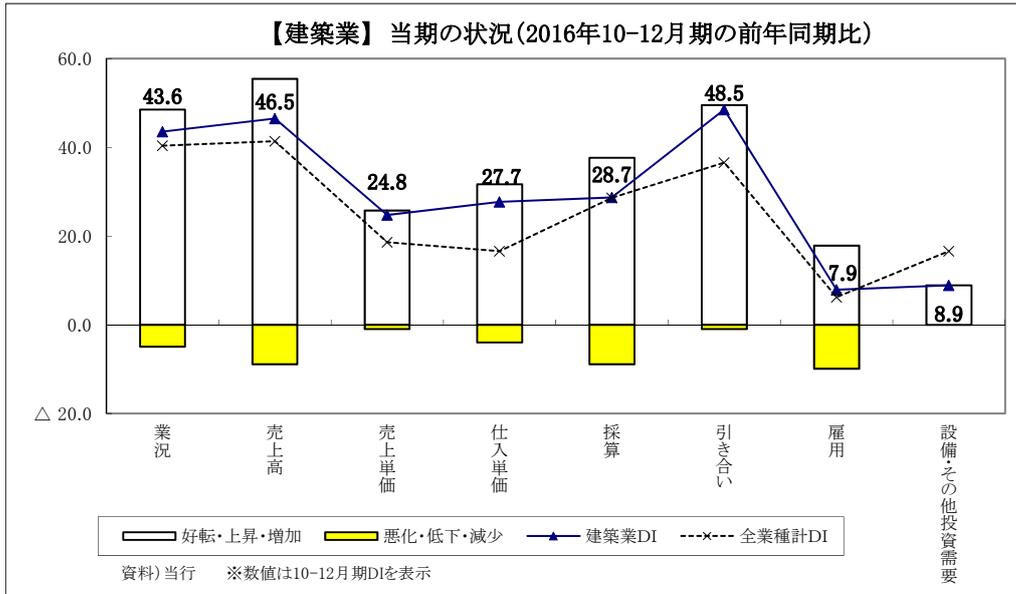
見通し業況DIは 50.0 となり、全体としては業況改善の動きが見込まれます。引き続き、年度末に向けた公共工事の受注増加や定期点検工事の増加などが見込まれることなどから、売上高・採算・引き合いの増加が期待されます。一方で、一部では、工事遅延による売上高・採算の悪化を懸念している事業者がみられます。



4. 建築業

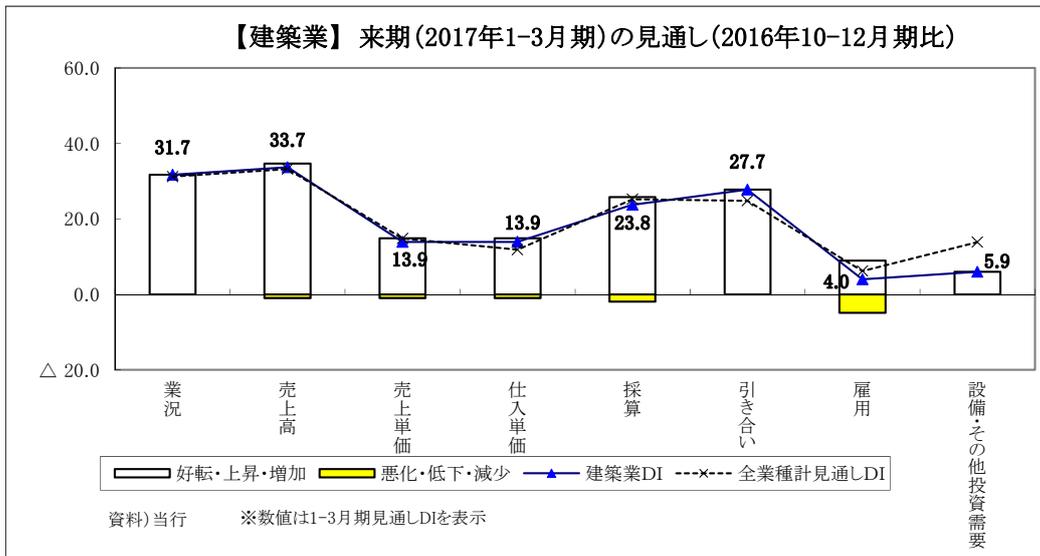
a. 当期の状況 (2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは43.6となり、全体としては業況改善の動きがみられます。公共工事(空港関連の電気通信工事、基地内の空調工事等)や民間工事(住宅、アパート、マンション、ホテル、内装等)の受注増加などから、売上高・引き合い・採算が増加しています。一方で、一部では資材価格や人件費の高騰による採算の悪化や県外大手建設業の参入など競合による受注減少から売上高の減少を懸念している事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

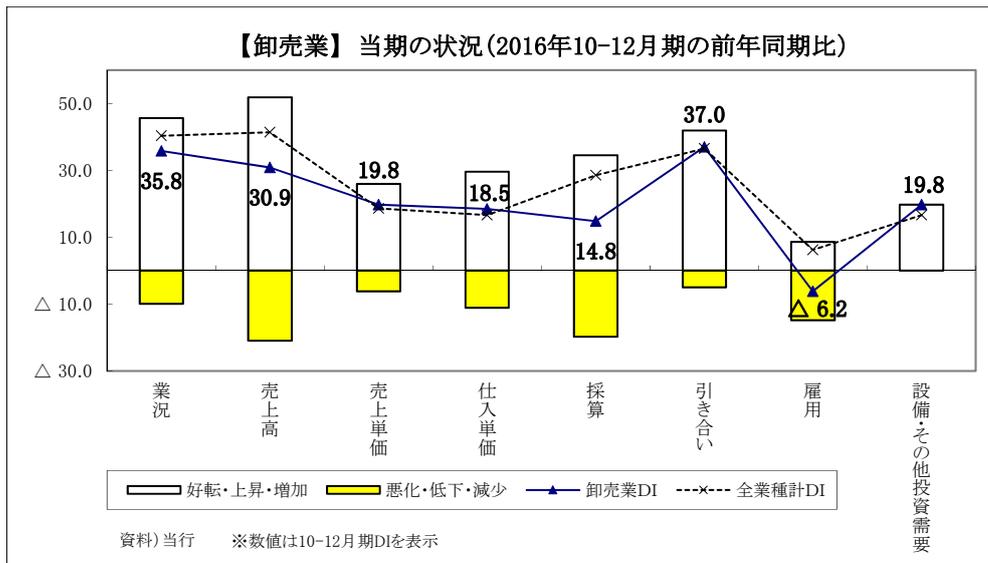
見通し業況DIは31.7となり、全体としては業況改善の動きが見込まれます。引き続き、年度末に向けた公共・民間工事の受注増加や手持ち工事の完成が見込まれることから、売上高・採算・引き合いの増加が期待されます。一方で、一部では資材価格高騰や恒常的な人手不足の影響を懸念している事業者もみられます。



5. 卸売業

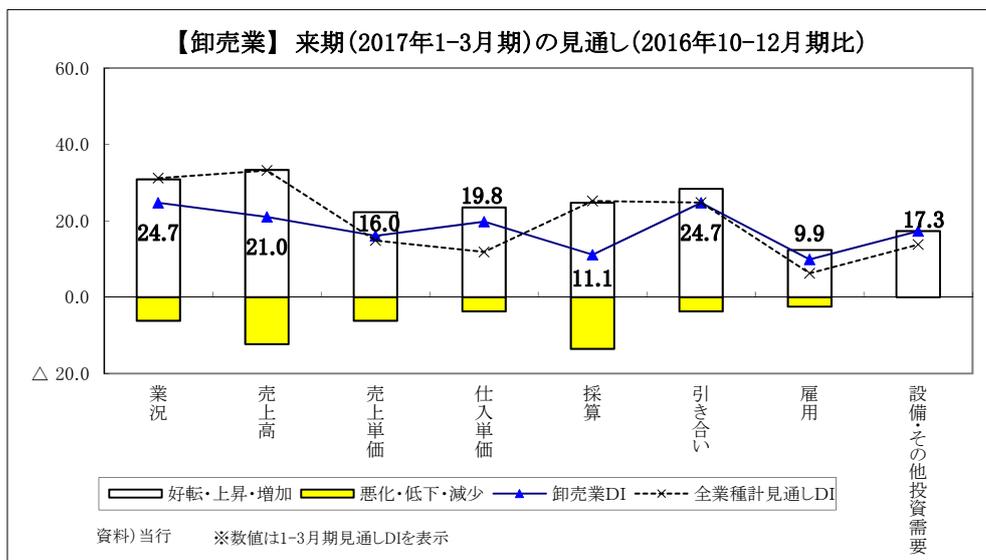
a. 当期の状況(2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは35.8となり、全体としては業況改善の動きがみられます。土産品、食品卸売業(食肉・水産物・青果等)では、インバウンド(訪日観光客)など観光需要の増加に加えて、販促強化や販路拡大などから、また、建築資材卸売業(アルミ・セメント二次製品・金物・機械器具等)では、堅調な公共・民間工事需要に伴い、売上高・採算・引き合いが増加しています。一方で、一部の建築資材卸売業では、工事の進捗遅延や退職者による雇用減少などから、売上高・採算・雇用が悪化している事業者がみられます。



b. 来期の見通し(2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

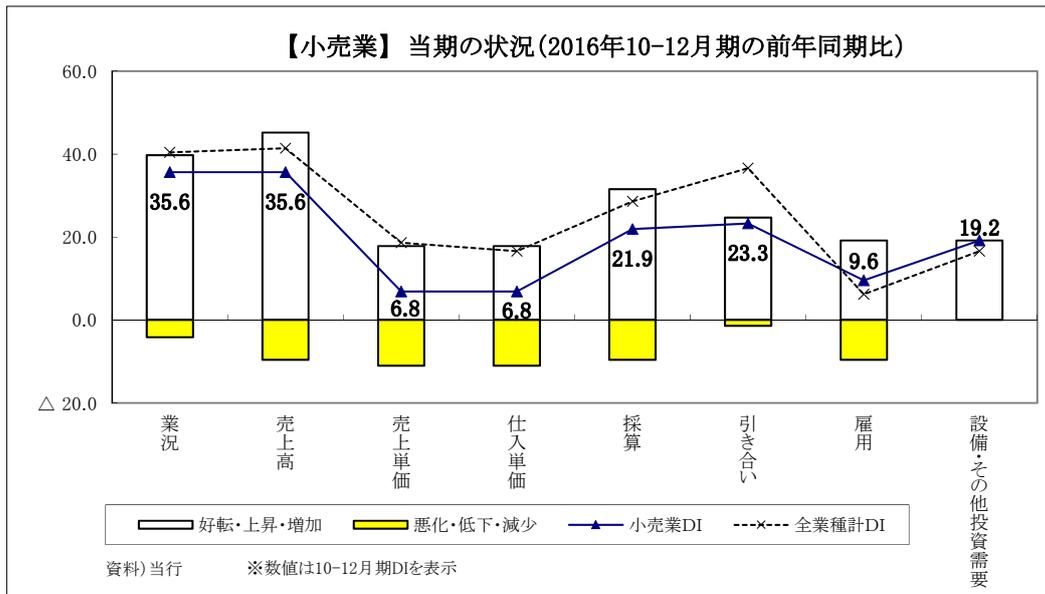
見通し業況DIは24.7となり、全体としては業況改善の動きが見込まれます。引き続き、建築資材卸売業では、年度末に向けた公共・民間工事の受注増加などから、一方で、一部の土産品、食品卸売業では、年末商戦需要からの反動減により、売上高・採算の悪化を見込む事業者もみられます。



6. 小売業

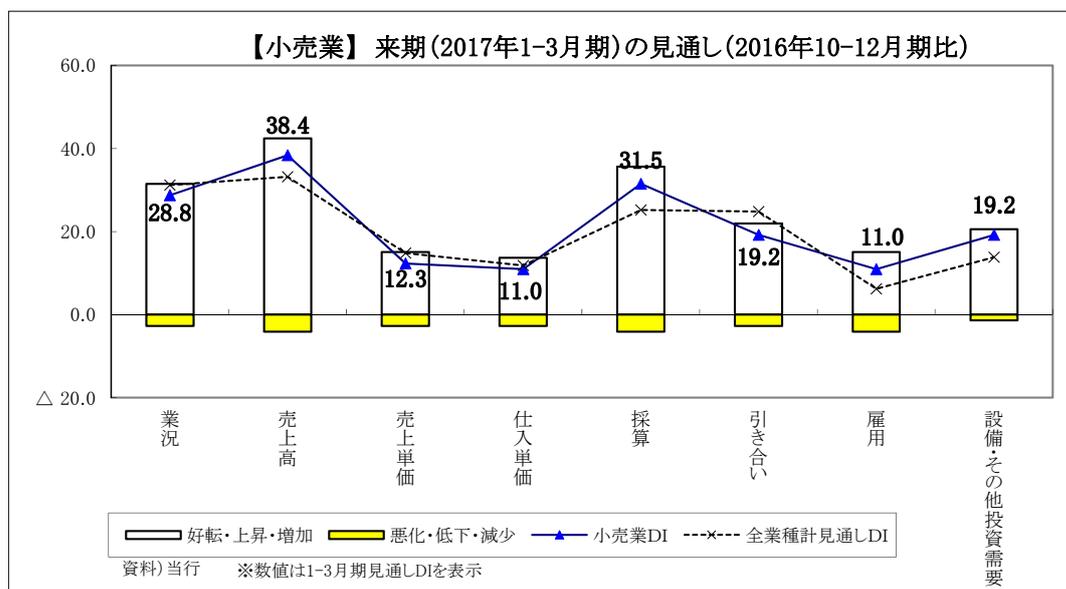
a. 当期の状況 (2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは 35.6 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。スーパー、コンビニエンスストア、百貨店、観光土産品、雑貨販売業では、修学旅行シーズンやインバウンド増加などの観光需要の増加や新規出店などにより、売上高・採算・引き合いが増加しています。また、自動車販売業では、新型車やHV車、レンタカー需要の増加などから、売上高・採算が増加している事業者がみられます。一方で、一部では中国人の購買減少などインバウンド需要が落ち込み、売上が減少している事業者もみられます。



b. 来期の見通し (2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

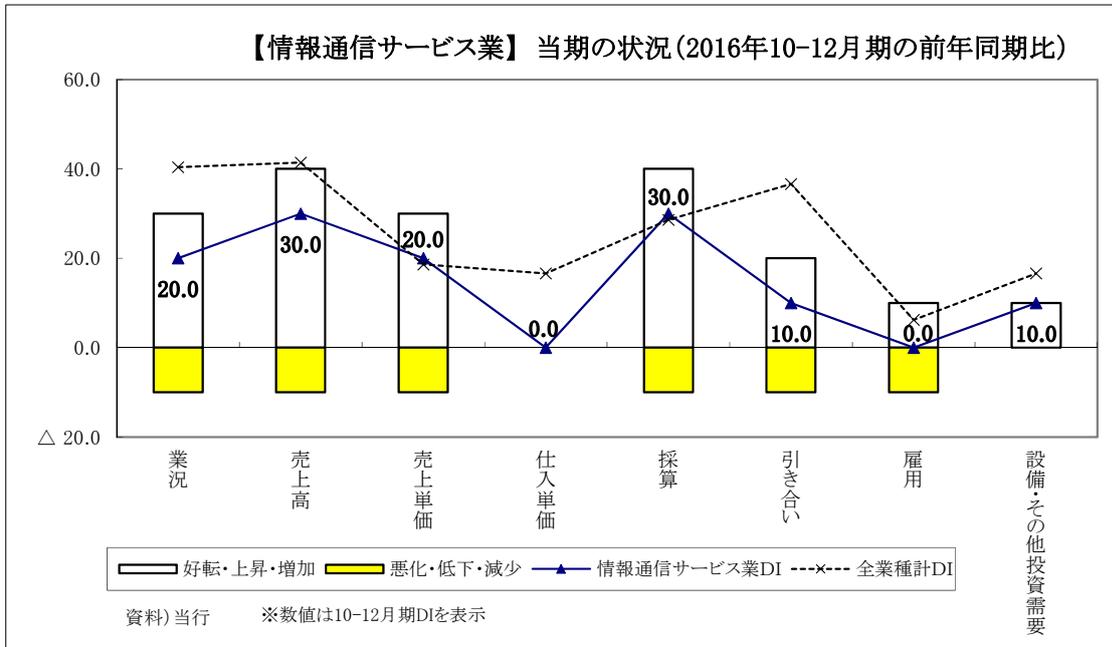
見通し業況DIは 28.8 となり、全体としては業況改善の動きが見込まれます。引き続き、スーパー、コンビニエンスストア、観光土産品販売業などでは、インバウンド需要の増加を見込むほか、年度末(新年度、新学期、買い替えシーズン等)に向けた需要増加などから、売上高・採算の増加が期待されます。一方で、一部では店舗閉店による売上高・採算の悪化を見込む事業者もみられます。



7. 情報通信サービス業

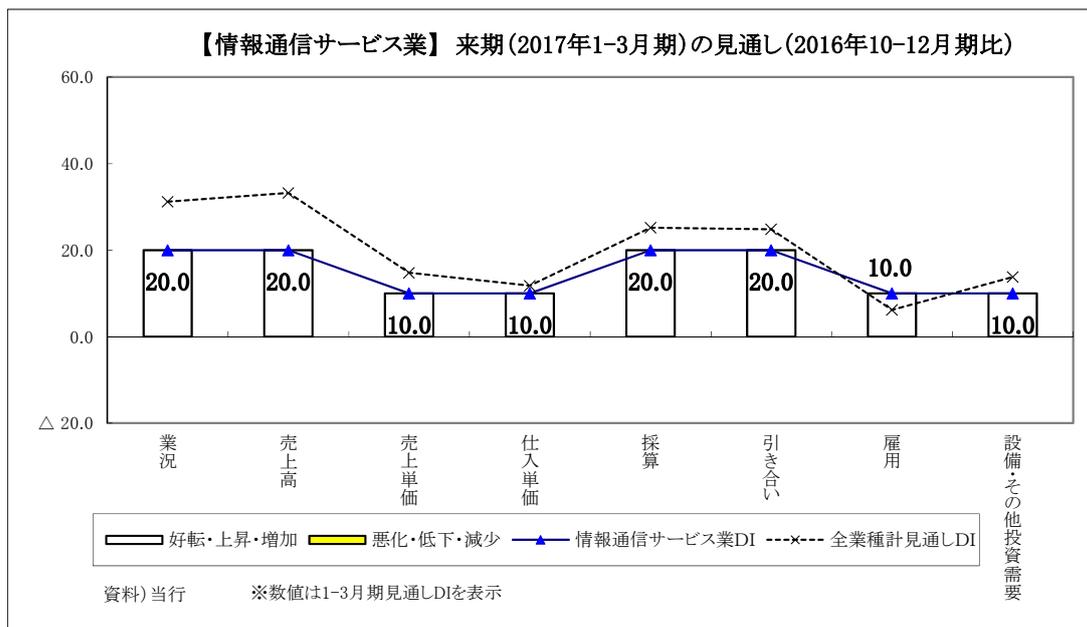
a. 当期の状況 (2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは 20.0 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。一部のソフト開発、音響技術業では、県外からの受注増加や保守点検業務の増加などから、また、一部の新聞業では、購読料の値上げから、売上高・採算の増加がみられています。



b. 来期の見通し (2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

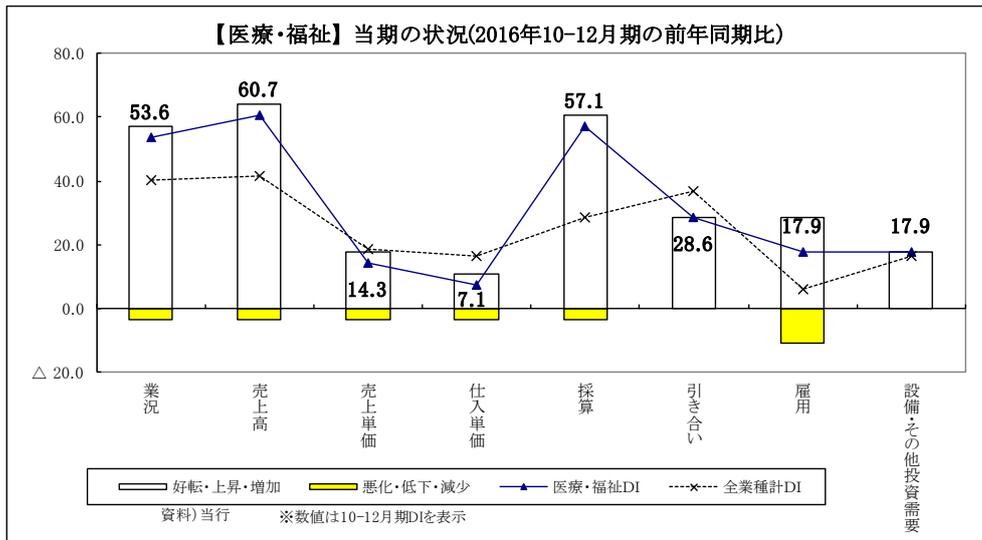
見通し業況DIは 20.0 となり、全体としては業況改善の動きが見込まれます。ソフトウェア開発、音響技術業では、引き続き、案件受注の増加が見込まれるほか、求人広告業では、業界を問わず人手不足が続く状況から求人募集が増加し、売上高・引き合いの増加が見込まれています。



8. 医療・福祉

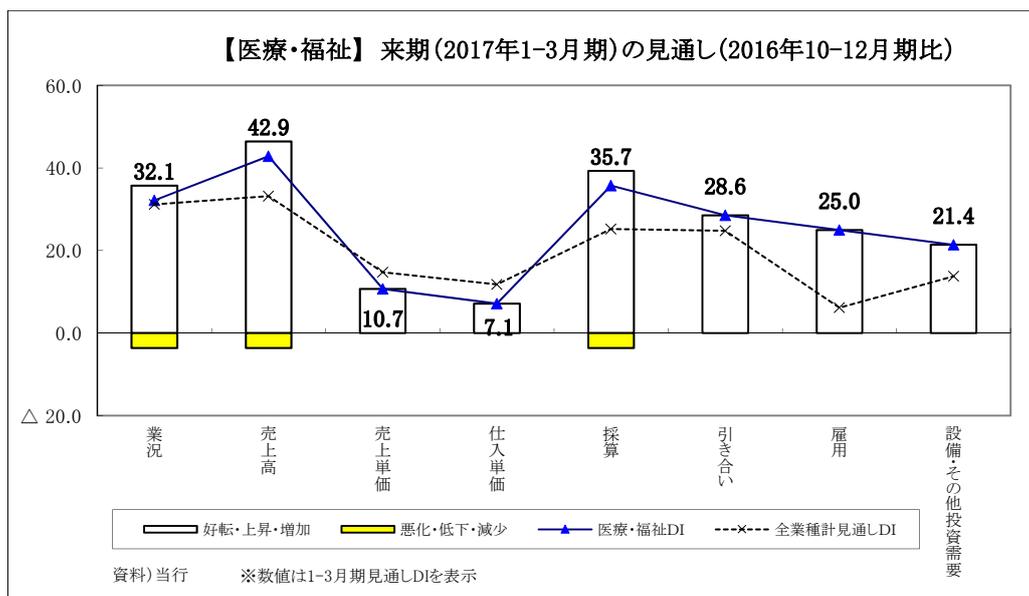
a. 当期の状況(2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは 53.6 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。医療、介護、福祉施設(病院、老人ホーム、保育所等)の新規開設や職員の増員、接遇力の向上などにより利用者(入所者)が増加し、売上高・採算・雇用が増加しています。一方で、一部の介護施設では、近隣の競合施設が増加したことによる利用者の減少から売上高・採算の悪化がみられています。



b. 来期の見通し(2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

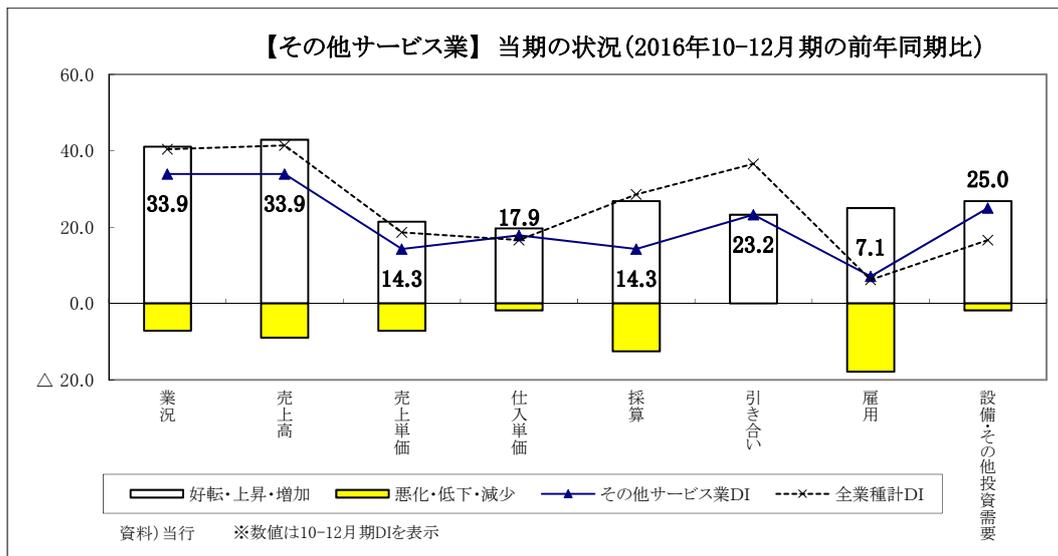
見通し業況DIは 32.1 となり、全体としては業況改善の動きがみられ、医療施設の経営環境は堅調に推移することが見込まれます。また、一部の医療施設では、冬場の季節要因による利用者の増加が見込まれており、売上高・採算の増加が期待されています。



9. その他サービス業(宿泊、飲食、ゴルフ場、遊戯場、結婚式場、教育関連等)

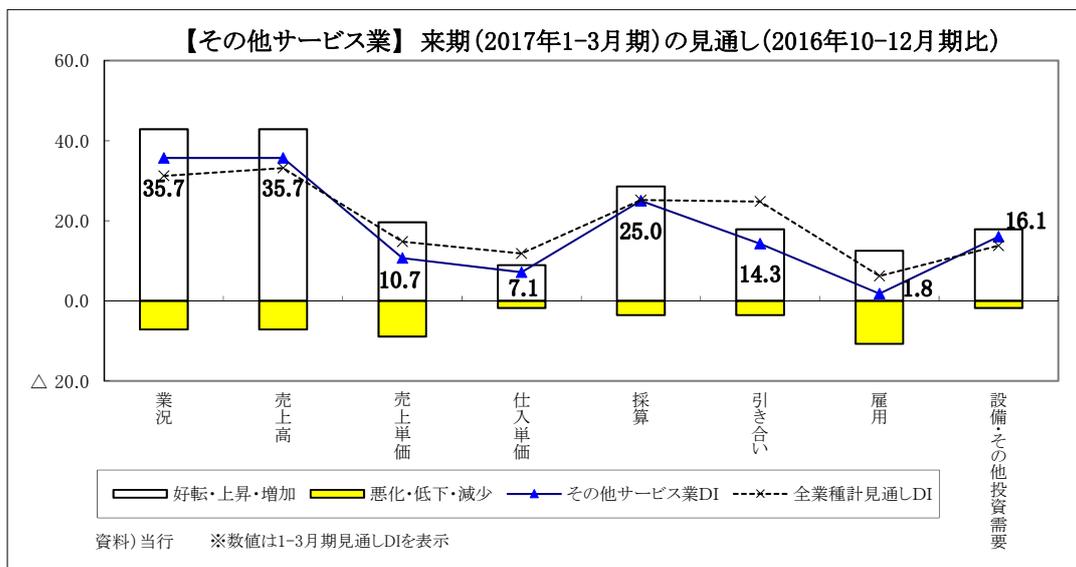
a. 当期の状況(2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは 33.9 となり、全体としては業況改善の動きがみられます。旅行、宿泊、レンタカー、飲食業(レストラン、居酒屋など)では、修学旅行やインバウンド需要などが増加しているほか、新規出店、店舗改装、販路拡大などにより、売上高・採算・引き合い・雇用が増加しています。一方で、恒常的な人手不足による人件費の増加や雇用の確保を懸念している事業者も一部でみられます。



b. 来期の見通し(2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

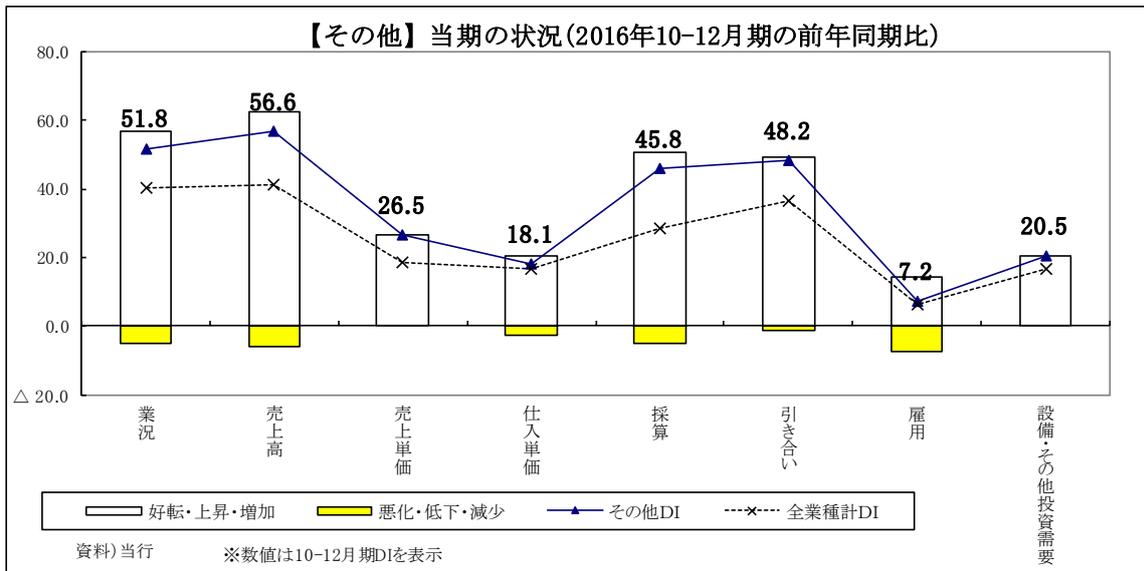
見通し業況DIは 35.7 となり、全体としては業況改善の動きが見込まれます。引き続き、旅行、宿泊、飲食業などでは、国内外観光客需要の堅調な推移が見込まれ、売上高・売上単価・採算の増加が期待されるほか、新規出店計画などの設備投資需要も一部でみられます。一方で、一部の宿泊業では需要の閑散期として売上高、売上単価の減少を見込む事業者もみられます。



10.その他(不動産、運輸、測量、設計コンサル等)

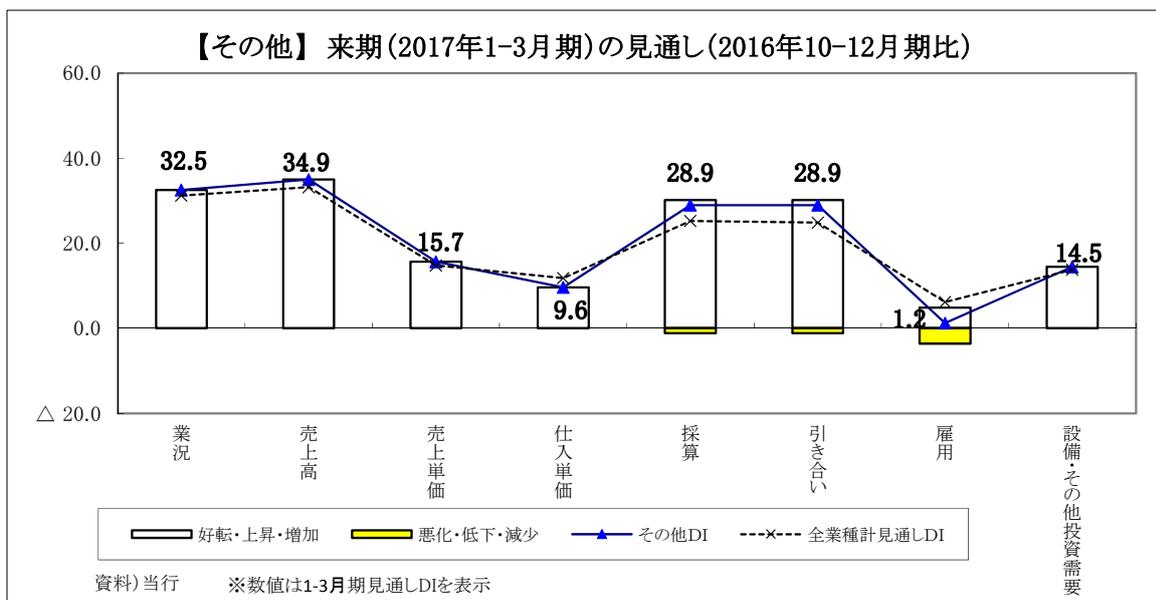
a.当期の状況(2016年10-12月期の前年同期比)

業況DIは 51.8 となり、全体としては**業況改善の動き**がみられます。測量、設計業では公共工事などの受注増加から、**運輸業**では国内外観光客の需要増加から、また、**不動産業(販売・仲介・管理)**では、住宅、マンション等の販売増加やアパート管理戸数の増加などから、売上高・採算・引き合い・設備投資の増加が幅広くみられています。



b.来期の見通し(2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

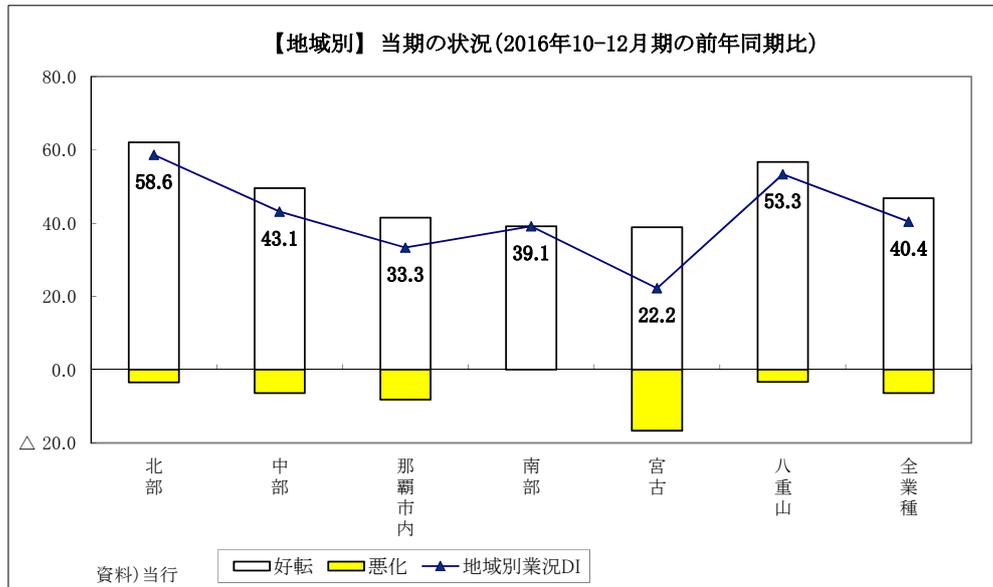
見通し業況DIは 32.5となり、全体としては**業況改善の動き**が見込まれます。引き続き、測量、設計、**運輸業**では、年度末に向けた公共・民間工事の受注増加などから、また、**不動産業**においても、年度末(入学、転勤シーズン)の需要増加が見込まれることから、売上高・採算・引き合いの増加が見込まれます。



Ⅲ. 調査結果(2) ～地域別の業況DI～

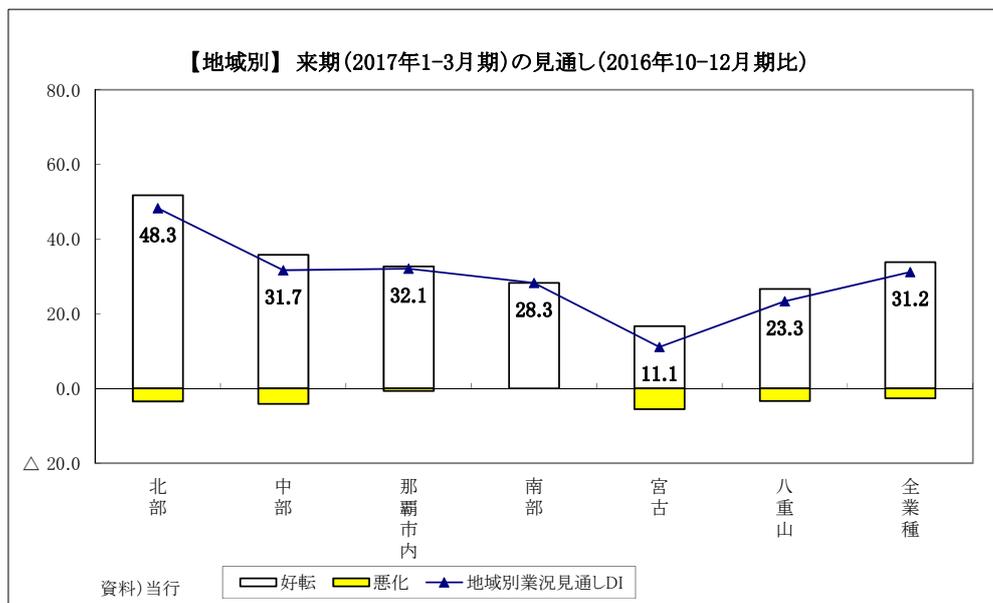
1. 当期の状況(2016年10-12月期の前年同期比)

地域別業況DIは、公共・民間工事の受注増加や国内外観光客需要の増加などがみられる**北部地区(58.6)**や**八重山地区(53.3)**をはじめ、観光関連(宿泊・飲食・運輸業等)や建設関連(土木・建築業等)などが好調に推移していることから、全ての地域で**業況改善の動き**がみられています。



2. 来期の見通し(2017年1-3月期の2016年10-12月期比)

地域別業況見通しDIは、引き続き、全ての地域で**業況改善の動き**が期待されます。観光客需要の堅調な推移や年度末に向けた公共・民間工事の受注増加が見込まれる**北部地区(48.3)**や**那覇市内(32.1)**をはじめ、各地域において、年始や年度末に向けた需要増加が見込まれ、業況が好調な推移が期待されています。



IV.まとめ

【当期の業況DI】

- ① 当期（2016年10-12月期）の業況DIは**40.4**ポイント（前年同期比）となり業況改善の動きとなりました。
- ② **観光関連（宿泊、飲食、運輸業など）**では、入域観光客数が好調に推移（10月＝10.2%増、11月＝4.9%増：いずれも前年同月比）しているほか、修学旅行、インバウンド需要の増加や新規出店、店舗改装、販路拡大などにより、売上高・採算・引き合い・雇用が増加しています。一部では恒常的な人手不足による人件費の増加や雇用の確保を懸念している事業者がみられるものの、全体としては業況改善の動きがみられます。
- ③ **建設関連（土木、建築、測量、設計など）**では、公共工事（空港関連の電気通信工事、基地内の空調工事等）や民間工事（住宅、アパート、マンション、ホテル、内装等）の受注増加などから、売上高・引き合い・採算が増加しています。一部では資材価格や人件費の高騰による採算の悪化や県外大手建設業の参入など競合による受注の減少から売上高の減少を懸念している事業者もみられるものの、全体としては業況改善の動きがみられます。
- ④ **小売業（スーパー、コンビニエンスストア、百貨店、観光土産品など）**では、修学旅行シーズンやインバウンド増加など観光需要の増加や新規出店などにより、売上高・採算・引き合いが増加しています。また、**自動車販売業**では、新型車、HV車、レンタカー需要の増加などから、売上高・採算が増加している事業者がみられます。一部で、中国人の購買減少などインバウンド需要が落ち込み、売上が減少している事業者もみられるものの、全体としては業況改善の動きがみられます。

【来期の見通し業況DI】

- ① 来期（2017年1-3月期）の見通し業況DIは**31.2**ポイント（2016年10-12月期比）となり、引き続き業況改善が期待されます。
- ② **観光関連**では、引き続き、国内外観光客需要の堅調な推移が見込まれ、売上高・売上単価・採算の増加が期待されるほか、新規出店計画などの設備投資需要も一部でみられます。一部の**宿泊業**では需要の閑散期として売上高、売上単価の減少を見込む事業者もみられるものの、全体としては業況改善の動きが見込まれます。
- ③ **建設関連**では、引き続き、年度末に向けた公共・民間工事の受注増加や手持ち工事の完成が見込まれ、売上高・採算・引き合いの増加が期待されます。資材価格の高騰や恒常的な人手不足の影響を懸念している事業者も一部でみられるものの、全体としては業況改善の動きが見込まれます。
- ④ **小売業**では、引き続き、インバウンド需要など観光需要の増加を見込むほか、年度末（新年度、新学期、買い替えシーズン等）に向けた需要増加などから、売上高・採算の増加が期待されます。一部では店舗閉店による売上高・採算の悪化を見込む事業者もみられるものの、全体としては業況改善の動きが期待されます。

（おきぎん経済研究所 研究員 高良 圭）